

ぼくの町の絶滅危惧種

赤信号新聞

ハマボウフウの巻

宮城県関上のハマボウフウ



ハマボウフウの花

宮城県には関上と言われる港町があります。東日本大震災が起こる前からそこにはハマボウフウが育っていました。

ハマボウフウ何? っっていい

ハマボウフウは海岸に生えて、ゴボウを細くしたような長い根を地中深くに伸ばしています。地表にはうようよと葉を広げて、茎は赤むらさき色をして葉はシヤがありギザギザしています。食べるとスツキリした味が口に広がります。

ハマボウフウは夏に白色の花が咲きますが、しゅうかくは春に新しい芽を伸ばし花が咲くまでの三月から五月にかけてが旬です。天ぷら、刺身でも食べられ、昔は漢方薬として使われていました。今は数が減って絶滅危惧種になりました。



東日本大震災を生き残った

絶滅危惧種「ハマボウフウ」を救いたい!!

キセキの日

平成十二年、絶滅したと思われるハマボウフウが3株発見され、近くの高校に育ててもらいました。平成十三年には名取ハマボウフウの会が作られ、十年かけて2万株まで増やしました。しかし、東日本大震災がおきま



震災後閉上

海岸のハマボウフウ

赤新1号
仙市西中剛学校
山根一輝
特校:ドッジボール
夢:飛行きのパイロット

名取ハマボウフウの会の活動

① ハマボウフウ育成
きれいな海岸の再生をスローガンに平成十四年六月から海岸の一部にかんばんを立て、サクで囲みました。その中でハマボウフウを作り増やしつつつけています。



ハマボウフウを海岸にうえる。

② 黄色のハンカチ
フツエウのシンボルとして黄色のハンカチにメッセージを書いて海岸にかざっています。ぼくと同じ小学生が書いて、未来につなげる活動をしています。



黄色のハンカチを海岸にせつ。

③ ボランティア受入
全国の海岸で活動する人たちが、しよに年一回の交流会を行っています。中学生や高校生も参加してゴミ拾いやハマボウフウを植える活動を続けています。



ボランティアといっしょにゴミ拾い

そうじをして

「どこにいても砂浜でゴミが多いです。子供だってかばんばってそうじして、大人が海を汚しちゃいけないよ」といってました。ボランティアの人だけでなく、みんながゴミ捨てをやめる必要があります。



「ハマボウフウ」を守る作戦

ハマボウフウは昔はたくさんあったのですが、絶滅しそうなのは大人がとりすぎたことが原因でした。ぼくはハマボウフウのことを知りませんでした。友達も知らないと思います。だから、このことを知らせることが大事だと思い、新聞を書くことを決めました。ハマボウフウを守るためにボランティアにも参加します。ぼくが大人になったときもハマボウフウが海岸にたくさんあって、絶滅危惧種ではなくなるといいなと思います。新聞を書くのを手伝ってくれた人はハマボウフウ守り隊の一員です。



ハマボウフウ守り隊のバッジ